

ユニオンファンド 月次レポート

第 109 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2017年12月6日作成

MONTHLY TOPIC

高値更新が続いた株式市場の背景と今後

業績拡大に沿った日本株とそれ以上に上がった米国株

世界の株式市場は年初に予想された以上に好調なまま、どうやら 2017 年を終えそうです。途中で発生した不安材料を吸収して株価がほぼ一本調子で上昇した最大の要因は、企業業績の堅調であり、世界経済の拡大でした。

企業業績を示す代表的な数字は 1 株当たり利益 (EPS: Earnings Per Share) です。その予想値を日本の TOPIX (東証株価指数) で見ますと、予想 EPS は昨年末時点から直近 (12 月 1 日) までに 21%増加しました。この間の株価上昇率は 18%ですから、株価上昇は利益予想の増加でほぼ説明できます。一方、米国は少し状況が違います。代表的な株価指数である S&P500 は同じ期間に 18%上昇しましたが、EPS 予想は 9%の増加に過ぎません。この結果、予想 PER (※) は 1 割弱上昇しました。S&P500 は企業業績の拡大を超えて上昇したわけです。来年の焦点の一つは、PER の上昇を支えた環境が続くかどうかです。

※PER: Price Earnings Ratio。株価収益率とも言い、株価÷EPS で計算します。

荒れ模様を味方にする長期投資

PER を押し上げる要因としては、①金利低下、②長期期待利益成長率の上昇、③その他外部要因の改善 (専門用語を使えば、リスクプレミアムの低下) などが挙げられます。このうち①は、景気的好調や中央銀行 (FRB) による利上げ予想を考えますと、今後は期待薄です。②は、来年もプラス要因でしょうが、さらに大きなプラス効果をもたらせるかは不明です。③もあまり期待できません。なぜなら、2017 年の初めに抱えていた懸念材料は既にかなり払拭されているからです。欧州政治情勢への懸念はフランス大統領選で沈静化し、米朝対立についても、まるでオオカミ少年の寓話のように、繰り返されているうちに警戒意識が薄れました。トータルすれば、米国株の PER が今年のように上がるとは考えにくく、逆に下がる可能性さえありそうです。

米国について付け加えれば、市場に出回るお金の伸びが鈍化していることも気がかりです。具体的には、通貨供給量の代表的な指標である M2 の伸びが低下しており、「金余り」状態が転機を迎えているようです。

米国に限らず、長い上昇相場で市場に慢心が広がっている可能性も少なくありません。2018 年は今年に比べて荒れ模様となり、それが世界に波及することがあるかもしれないと見ているわけですが、ここでぜひお伝えしたいことがあります。第一に、市場が荒れそうなら今売った方がいいかと言えばそう簡単ではなく、まだまだ上がり続ける可能性もあること、第二に、仮に下落局面があれば投資を拡大する好機となることです。慌てて売ったり、積立を減額したり一時停止したりせず、どうか下がったら積み増しを考えていただきたいと思います。下がった時の前向きな行動こそが将来のプラスとなってくるからであり、長期投資の大きな強みだからです。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2017年11月末現在)

基準価額

25,759 円

純資産総額

60 億 17 百万円

期間別騰落率(%)

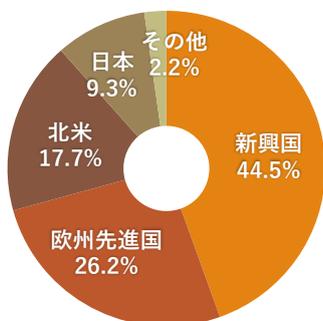
1 ヶ月	-0.29%
6 ヶ月	8.95%
1 年	21.83%
3 年	18.55%
5 年	96.15%
設定来	157.59%

複利年率(%)

10.94%

*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2017年10月末現在)

基準価額と純資産総額の推移



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.4%	1.7%
キャピタル F	欧米	13.6%	0.8%
ハリス F	欧米	21.7%	-3.1%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	4.9%	-0.8%
コムジェスト・エマージング F	新興国	39.1%	0.7%
現金等	-	13.3%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2017年11月の市場動向と運用状況

投資環境と基準価額の推移

世界の株価は、現地通貨ベースでは欧州を除いて若干上昇したものの、為替市場で円が反発したことから、円に換算しますとわずかながら値下がりとなりました。

景気は世界的に引き続き好調で、企業の景況感も高水準で推移しており、業績も概ね堅調です。欧州株の不調は、年初からのユーロ高でグローバル企業の収益が頭打ち傾向にあることが理由とされます。一方、新興国企業は好調さが増しており、業績予想の上方修正が下方修正を社数ベースで上回りました。これは2011年初め以来ほぼ7年ぶりのことで、回復のすそ野が広がっていることがうかがえます。

為替市場ではドルが反落しましたが、これは米国のインフレ率が高まらず、長期金利が頭打ちになっていることが主因とされます。市場では12月中旬の利上げ予想が大勢を占めていますが、長期の金利を押し上げるには至っていません。ドル円について言えば、通貨先物市場で円を売るポジションがかなり積み上がっていましたが、その反対売買（円の買戻し）が進んだこともドル安要因と見られます。

こうしたなか、ユニオンファンドは小幅ですが値下がりしました。P2に掲げておりますが、ハリスFが大きく値下がりして全体の足を引っ張った格好です。一方、日本株に投資しているさわかみFは市場を上回る値上がりとなりました。ただ、組入比率が低いと、ユニオンファンドへの寄与は小幅にとどまりました。また、新興国株は円建てでも値上がりしましたが、コムジェストEMFは市場の動きを下回りました。なお、ハリスFについては、このファンドへの投資にあたっての考え方をP6の下段で述べましたので、ご参照頂ければと思います。

運用の状況

海外株式に投資する3つのファンドを買い増しました。値下がりしているか、市場の動きに遅れているファンドは魅力が高まったとの判断によります。買い付け額が定期定額積立を中心とした資金流入額を上回ったため、月末時点の組入比率は86.7%と、10月末から若干上昇しています。

なお、キャピタルFでは10月に運用担当者の交代（4名中の2名が入れ替わり）がありました。これにともない、組入銘柄が前月までの160台から190台へと大きく増加し、1銘柄当たりの組入比率が低下しています（ただし、この点は担当者の交代という過渡期特有の一時的変動とされます）。また、地域別の配分も変更されています。米国株については割高感から比率を引き下げ、欧州株は相対的の魅力の高さから引き上げたとのことです。この結果、ユニオンファンドの地域別配分も、若干ですが欧州の比率が高まりました。

今後の見通しと運用方針

北朝鮮問題、トランプ政権のロシア問題、ドイツの連立政権の行方など、市場には若干の不透明感もありますが、基本的には企業業績の好調を背景に、しばらく堅調な状況が続く可能性が大きいと見ています。引き続き割安となったファンドを中心に買い増しを続ける方針です。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



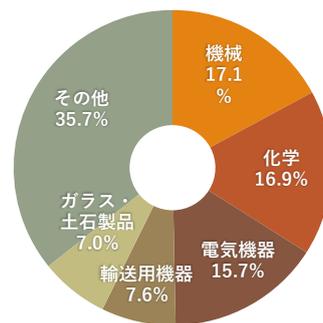
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 日本電産	4.8%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
2 プリヂェストン	4.7%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3 TOTO	3.8%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
4 ダイキン工業	3.5%	日本	機械	エアコン世界首位
5 花王	3.5%	日本	化学	トイレットペーパー首位
6 信越化学工業	3.1%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
7 国際石油開発帝石	2.8%	日本	鉱業	石油メジャー
8 浜松ホトニクス	2.6%	日本	電気機器	光検出器の世界の企業
9 トヨタ自動車	2.6%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
10 テルモ	2.4%	日本	精密機器	医療機器 (カテーテル)
上位 10 銘柄	33.7%		現金等	9.7%

業種別構成比



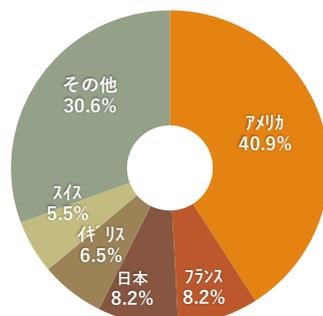
※ 業種：東証 33 業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2017 年 11 月末現在 >

キャピタル F (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラス Z)

基準価額の推移



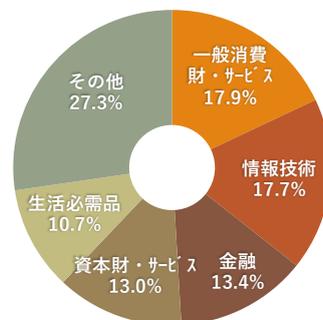
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Alphabet	1.8%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
2 ASML	1.8%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
3 Airbus	1.7%	フランス	資本財・サービス	世界有数の航空機メーカー
4 Pernod Ricard	1.7%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
5 Microsoft	1.6%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピュータ・ソフト
6 Incyte	1.6%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品メーカー
7 Nestle	1.4%	スイス	生活必需品	世界最大の食品飲料会社
8 Visa	1.4%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
9 村田製作所	1.3%	日本	情報技術	電子部品の世界大手
10 AIA	1.3%	香港	金融	生保・金融サービス
上位 10 銘柄	15.5%		現金等	5.0%

業種別構成比



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2017 年 10 月末現在 >

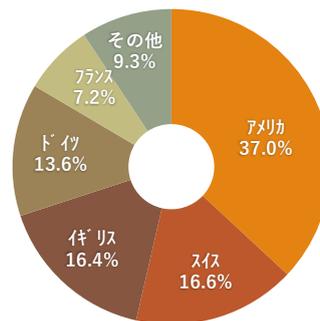
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007)

基準価額(分配金込み)の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 DAIMLER	5.7%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
2 CREDIT SUISSE	5.1%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
3 GLENCORE	5.0%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
4 BNP PARIBAS	5.0%	フランス	銀行	フランス大手銀行
5 ALLIANZ	4.6%	ドイツ	保険	総合保険大手
6 CNH INDUSTRIAL	4.6%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
7 GENERAL MOTORS	3.9%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ 3 の一角
8 JULIUS BAER	3.7%	スイス	各種金融	プライベートバンク
9 WPP	3.6%	イギリス	メディア	大手広告代理店
10 CITIGROUP	3.2%	アメリカ	銀行	金融大手
上位 10 銘柄	44.4%		現金等	4.5%

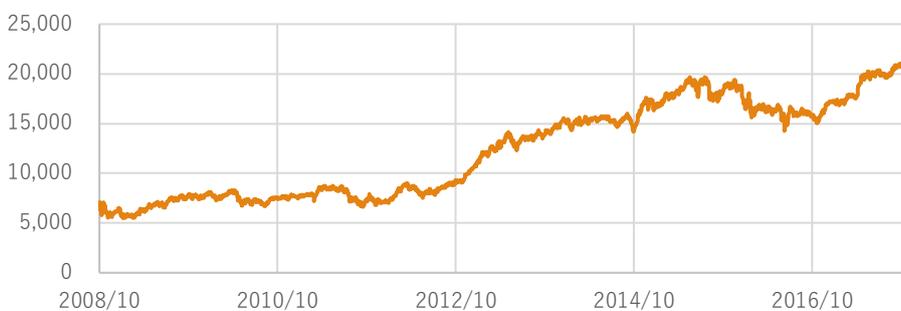
業種別構成比 (マザーファンド)



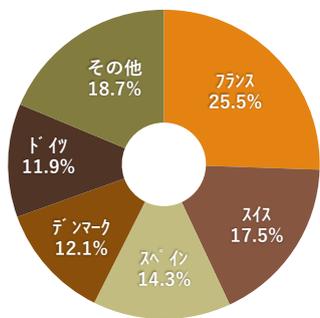
※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 10 月末現在>

コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA)

基準価額の推移



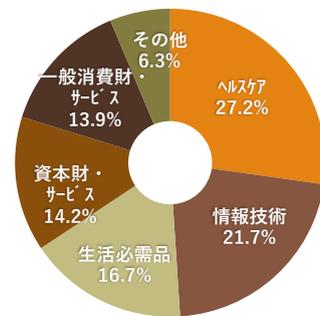
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INDITEX	7.1%	スペイン	一般消費財・サービス	ファッションメーカー
2 AMADEUS	6.6%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
3 ESSILOR	4.8%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 DASSAULT SYSTEMES	4.5%	フランス	情報技術	欧州大手 3D ソフト会社
5 COLOPLAST-B	4.2%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
6 WIRECARD	4.0%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
7 SARTORIUS STEDIM	3.9%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
8 AB FOODS	3.7%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
9 L'OREAL	3.7%	フランス	生活必需品	化粧品世界最大手
10 SAP	3.6%	ドイツ	情報技術	ビジネス向け大手ソフトウェア
上位 10 銘柄	45.9%		現金等	4.0%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 11 月末現在>

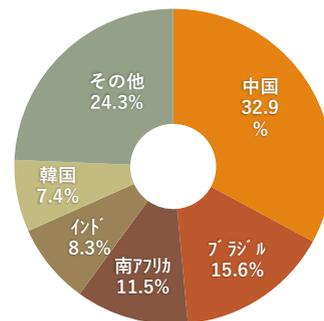
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA)

基準価額の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	5.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 CHINA LIFE	5.1%	中国	金融	生保国内最大手
3 NETEASE ADR	4.4%	中国	情報技術	オンラインゲーム
4 PING AN INSURANCE	4.3%	中国	金融	保険大手
5 SAMSUNG LIFE	3.6%	韓国	金融	生保
6 POWER GRID OF INDIA	3.6%	インド	公益事業	電力関連 (送電網)
7 BAIDU ADR	3.6%	中国	情報技術	検索エンジン世界2位
8 MTN	3.5%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
9 NASPERS	3.1%	南アフリカ	一般消費財・サービス	メディア、中国 TENCENT の大株主
10 COGNIZANT TECHNOLOGY	2.8%	アメリカ	情報技術	インドに受託拠点を置くIT会社
上位10銘柄	39.1%		現金等	1.6%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年11月末現在>

ショートコメント

ハリスのセミナーで確認した割安株投資への自信

11月末にハリス社の運用責任者であるデビッド・ヒーロ氏のセミナーがあり、参加してきました。その前に実施した7-9月期の運用状況のヒアリングとあわせて簡単にご報告したいと思います。

P3で触れましたが、ハリスFは最近やや不調で、市場の動きに逆行して値下がり気味です。その主因は、市場を上回る投資をしている欧州株と金融株が軟調なことです。このファンドとのお付き合いは10年近くになるのでよくわかるのですが、この程度のことはよくありますし、問題とはまったく思いません。下がれば下がるほど魅力を増していくファンドだと思っています。

ハリス社らしい新規投資や買い増しの事例としては、英国のWPPという広告代理店、米国のGE、ドイツのBMWが挙げられます。いずれも直近の業績が良くなかったり、会社が公表した当面の見通しが市場参加者の期待を下回ったことから株価はさえず、この1年間の下落率はWPPが3割以上、GEは4割以上にも達しています。企業価値から見て大幅に割安だと判断しての投資です。4-6月に投資を始めたGEは、7-9月の下落局面でさらに買い増しをしています。綿密な調査があって初めてできる自信に満ちた行動だと改めて感じ入りました。

いい株を安く買ったら、あとは風向きが変わるのを焦らず待つだけ。これが長期投資のいいところです。

(運用責任者 久保田徹郎)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

■ 年末年始の営業日・営業時間等について

年末年始の営業日・営業時間および取引受付時間は、以下のとおりとなります。

	営業日	営業時間	取引受付時間
年末	2017年12月29日まで	9:00 ~ 17:00	15:00 まで
年始	2018年1月4日から		

※ ファンドを換金（解約）されるお客様で、年内に解約代金お受取りをご希望される場合は、12月22日（金）15時までにお申し込みください。

■ 目論見書の改定について

2017年12月23日にユニオンファンドの目論見書を改定いたします。

- ◎ 同日以降、新たな交付目論見書、請求目論見書を弊社ホームページへ掲載いたします。
- ◎ 今回の目論見書改定において重要な事項に変更はありません。
- ◎ 「目論見書不交付の同意」をされているお客様への新たな交付目論見書の交付は省略させていただきます（交付をご希望の場合は、弊社業務管理部（TEL：0263-38-0725）までお申し出ください。）。

■ ご住所の変更をされるお客様へ

弊社ではお客様のご登録情報に変更がある場合、各種変更届をご提出いただいております。

ご転居等で現在の登録住所を変更される方は、弊社業務管理部（TEL：0263-38-0725）へのお電話または弊社ホームページの「取引口座関連（各種変更手続き）」 > 「登録情報変更用紙請求」フォームで届出用紙をご請求ください。

お届けにあたっては、**新住所が証明できるご本人確認書類をあわせてご提出ください。**

※ ご住所変更の際、個人番号（マイナンバー）もご提示いただきます。

【ご注意ください】

- ・ 新住所をお届けいただくまでの間、各種報告書等は旧住所への送付となります。
- ・ 法令の定めにより、新住所のお届け出がない場合、原則として、ファンドの解約代金等をお支払いすることができません。
- ・ 海外へ転勤・移住等される場合は、お客様によって手続方法が異なります。**必ず出国される前に弊社までお電話ください。**（出国後ではお手続きいただけないものもあります。）

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 額 ありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。
[*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3% (概算)]
* 『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。
目安であり、組入状況により変動します。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。